

長岡市中心市街地での パブリック・ハック社会実験における ステークホルダーのマインドセット変化観察

現状と研究の背景

長岡市では「まちカフェ」という歩道にイスとテーブルを設置する取り組みが行わっていた。しかし、コロナ収束後に中心市街地から姿を消してしまった。そこで、「まちカフェ」の質的・空間的拡大の可能性について考察することを最終目的として、パブリックハック社会実験「イスダス文明探検隊」並びに本研究を実施した。

研究について

研究の目的

パブリック・ハック社会実験「イスダス文明探検隊」を研究対象として、パブリックハック社会実験におけるステークホルダーのマインドセット変化を観察し、ポジティブな変化が起こるか、そのポイントは何であるかを明らかにすることを目的とする。

研究概要

本研究では、商店街のステークホルダーと地域協創演習イスダス文明探検隊の履修学生を調査対象としている。前者では対面でのヒアリング調査、後者ではオンラインでのアンケート調査を採用している。これら調査を期間を空けて2回実施することで、マインドセットに変化が起こったかどうか、変化が起こった場合は何がポイントであったかを分析、考察する。

地域協創演習「イスダス文明探検隊」

長岡造形大学にて令和7年度の地域協創演習Sとして開講されており、21人が履修している。公共空間が低未利用になっている課題に対してパブリックハックや地域活性化に向けた企画構想・実行することをテーマとしている。

【五十市】



(問い合わせ先：長岡市産業支援課 / 場所：長岡市坂之上町2丁目)

【踊るナイトマーケット】



(主催：長岡商工会議所青年部 後援：長岡市 / 場所：大手通2丁目)

渡邊研究室所属
212047 水谷 壮太



マインドセットとは？

思考パターンの傾向のこと。

「fixed mindset: 硬直マインドセット」と「growth mindset: しなやかマインドセット」に分けられる。

パブリック・ハックとは？

公共空間において

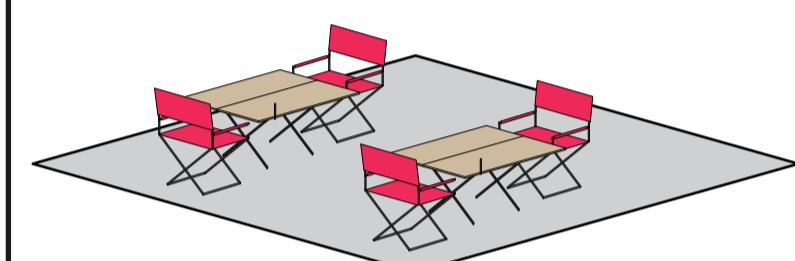
『個人が生活行為として自然体で自分の好きなように過ごせる状態であること』を意味する

パブリック・ハック社会実験「イスダス文明探検隊」

まちなかの歩道にイスとテーブルを設置して「自由な利用が可能な場所=パブリック・ハック可能な場所」とすることで、公共空間である「歩道」を楽しむ人を増やす試みとなっている。

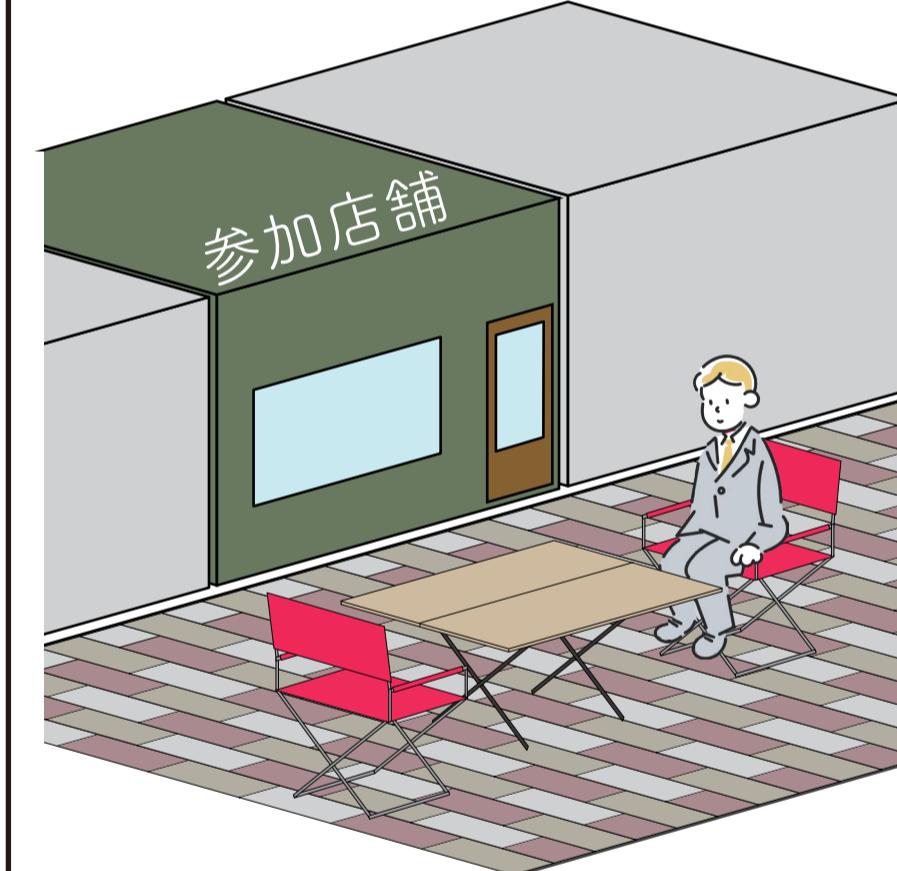
社会実験の概要

渡邊研究室がイスと
テーブルを8セット用意



02.
社会実験終了後に返却

01.
参加店舗に1セットずつ貸与



参加店舗のやること

- 日々のイス設置と撤収
- 未使用時のイス保管

【運営】渡邊研究室

【協力】長岡市役所中心市街地整備室

長岡市商店街連合会

【期間】2025/05/05 ~ 11/11



イスダス文明 参加店舗

イヌドウ隊



【HAKKO trip!!】



(主催：長岡の発酵ミーティング 共催：長岡市摂田屋 method / 場所：宮内～摂田屋エリア)

イヌス文明における参加店舗の分類と考察

パブリック・ハック社会実験の結果から参加店舗を以下のように分類した。

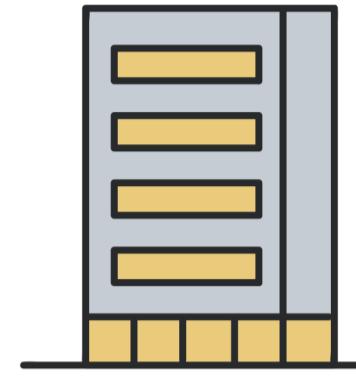
【Group①】 事務所またはサービス業（窓口）

通行人がその場で顧客へ変化することが稀であり、集客と社会実験を切り離して考えることが可能となる。モチベーション等がイスの利用状況に影響を受けづらい。

ポジティブなマインドセット変化

【店舗 C】「潜在的な顧客への認識変化」/「まちなかへの認識変化」

【店舗 G】「まちなかへの認識変化」



高
↓
低

【Group②】 小売店（買回り品）またはサービス業

通行人が顧客になる可能性が十分にある店舗が含まれる。
このグループ内でも取り扱う品やサービスによって適性は大きく変化する。

集客へと繋がらなかった場合にマイナス思考になる可能性がある。

ポジティブなマインドセット変化

【店舗 F】「イヌス活動の継続意思」



【Group③】 飲食店、食料品店

①飲食店のみ通行人からテラス席であると判断され、「店舗での購買が必須」と誤認し利用に繋がらない可能性がある。

②テラス席の空席が店舗にとってネガティブ広告なる可能性がある。

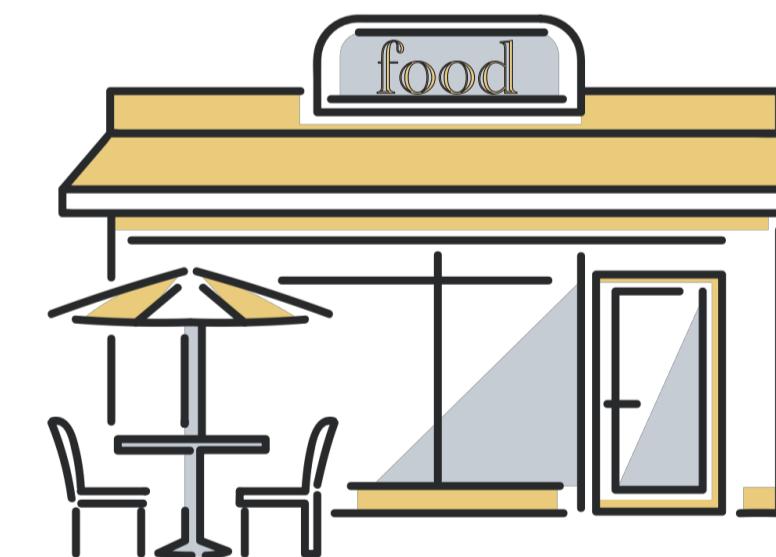
この2点によってマイナス思考へとつながる危険性がある。

ポジティブなマインドセット変化

【店舗 A】「自分の行動への思考変化」

ネガティブなマインドセット変化

【店舗 H】「社会実験へのマイナス思考」



基本的に①→③の順で適性が低下していく傾向が見られた。

【店舗 A】におけるポジティブ変化の要因

「社会実験と集客を切り離して考える」ことが一つの要因であることが明らかになった。

【その他店舗】におけるポジティブ変化の要因

イスが「接点」となってコミュニケーションが発生した。

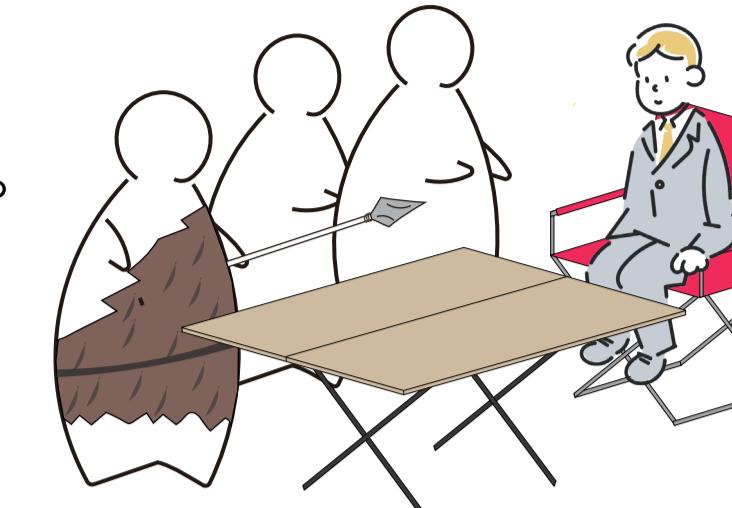
このことから「他者とのコミュニケーション」が要因の一つであると明らかになった。

イヌス文明における分類と考察

「イヌス文明探検隊」では活動内容と行動を6つの形態に分類している。

第1形態「パブリック・ハック社会実験」

通称：イヌス新人
商店街のイスに座ること。



結果：学生・市民
どちらも発生。

散歩やバス待ちでの利用が多く見られた。

第2形態「学生のパブリック・ハック」

通称：イヌス原人
学生が好きな場所にイスを持って行って座ること。

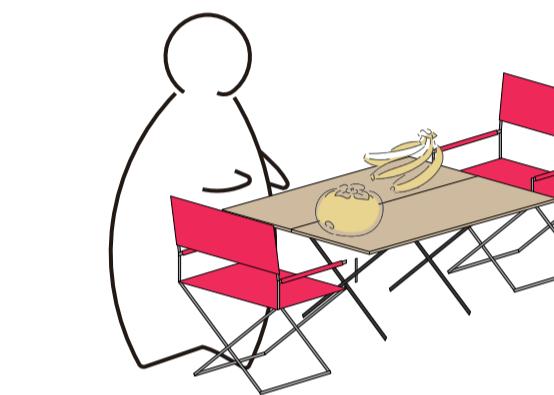


結果：発生しなかった。

原因
「学生 - 店舗」間での関係構築が不足していた。
駅前から徒歩圏に景色の良い場所が少ない。

第3形態「イヌス+五十市」

通称：イヌス五十市人
五十市でイスに座ること。



「五十市での様子」

結果：一回のみで、2回目以降は発生しなかった。

第4形態「自由なパブリック・ハック」

通称：イヌス〇〇人
イスで読書など自由に過ごすこと。ワークショップ開催もここに含まれる。

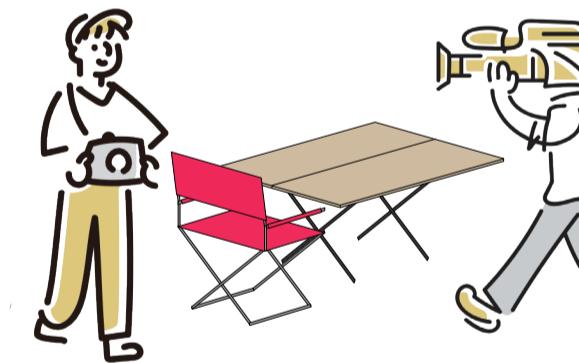


結果：市民ではイヌス読書人などが発生。
学生主導のワークショップも4回発生した。

第5形態「イヌス+メディア」

通称：イヌス伝道師
イスをメディアやSNSで発信すること。

結果：夕方のニュース 1回
SNS（市民） 数件
参加店舗 1店舗



第6形態「イヌス+イベント」

通称：イヌスコラボ人
まちなかのイベントにイヌス文明として参加すること。

結果：教員主導の活動は複数回発生した。



学生個人は筆者の
一回のみであった。

履修学生のマインドセット変化について

履修学生では学生jと筆者の2名にポジティブなマインドセット変化が発生し、以下の要因が明らかになった。

【コミュニケーション面でのマインドセット変化要因】

「参加店舗との十分なコミュニケーション」

【まちづくり面でのマインドセット変化要因】

「自身が第三者へ与えた影響を認識したこと」

履修学生には全体的に「活動時間 > 質」の傾向があった。

この傾向は受動的な活動の多さや、ほとんどの履修学生にポジティブなマインドセット変化が起らなかったことに表れていると考えられる。

以上からポジティブなマインドセット変化には、「主体性」と「参加店舗とのコミュニケーション」が必要不可欠であると推測する。



今後の研究では以下の事柄に着目して進めていきたい。
「学生と店舗の関係性によるマインドセットへの影響」
「主体性のある行動によるマインドセットへの影響」